

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下 保 修

事業の概要

事業名	一般国道108号 花瀧山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：宮城県大崎市鳴子温泉古戸前 至：宮城県大崎市鳴子温泉柏木原	延長	6.4 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道108号は、宮城県石巻市から秋田県由利本荘市に至る延長約189kmの主要幹線道路であり、宮城・秋田両県を最短で結ぶネットワークとして、物流や観光の面で重要な役割を担う路線である。花瀧山バイパスは、現道隘路の解消や災害時の迂回路の確保等を目的とした延長6.4kmの2車線のバイパスである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>花瀧山バイパスは一般国道108号の線形隘路解消(R≤60:20箇所、i≥6%:1.3km)、地滑り指定地域の回避による安全の確保のほか、災害時の緊急輸送や救急医療活動の支援、交流・連携による地域の活性化等に大きく寄与するものである。</p> <p>全体事業費 120億円 計画交通量 3,400台/日</p> <p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

花瀧山バイパスは、一般国道108号大崎市鳴子地区の線形隘路解消、崩落危険箇所等の回避による安全の確保、救急医療活動への貢献等を図るとともに、宮城・秋田両県を最短で繋ぐネットワークとして、地域間の交流・連携の活性化に大きく寄与することが期待されており、大崎市他1市2町の首長、地域住民等から早期整備の要望（平成19年10月11日）を受けている他、多くの団体等から同様の要望を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.5	総費用：99億円 （事業費：95億円 維持管理費：4.3億円）	総便益：246億円 （走行時間短縮便益：179億円 走行経費減少便益：67億円 交通事故減少便益：0.46億円）	基準年 平成19年
	事業の影響				
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価	根拠		
	渋滞対策	—	注目すべき影響はない。		
	事故対策	○	<p>線形隘路区間(Rmin≤30、Imax7.5%)における事故形態のうち正面衝突が約7割を占め、重大事故となる危険性が高い</p> <p>【死傷事故率】 16.3件/億台キロ（現況） [死傷事故率比(県内平均比)=0.5]</p> <p>【その他の特徴】 並行現道区間は平面線形及び縦断線形の隘路区間。 (R≤60:20箇所、i≥6%:1.3km) 線形不良に起因する正面衝突事故多発し、全体の7割以上が正面衝突、9割がカーブ・屈折等の線形不良箇所が発生</p>		
	歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	住民生活	◎	<p>高次医療施設へのアクセス向上 (三次医療施設大崎市民病院への搬送時間の短縮に寄与する道路である。) 鬼首地区→大崎市民病院=59分→48分（11分短縮）</p>		
	地域経済	◎	<p>東北の経済の中心であり特定重要港湾仙台港や仙台空港を有する仙台と秋田県を最短で結ぶ、物流等における重要路線である (当該区間が通行止めの場合：91km、約100分の迂回が発生) ※現道走行：58km、約62分</p>		
社会全体への影響	災害	◎	<p>通行止め時に孤立化する集落を解消 (大崎市への唯一のアクセス道路であるが、平成19年2月17日の地滑りにより通行止めが発生) 鬼首地区の通行止時間=1,128時間(47日間) 交通途絶による孤立=2日間(415世帯、約1400人)</p>		
	環境	—	注目すべき影響はない。		
	地域社会	○	<p>日常活動圏中心都市へのアクセス向上 (鬼首地区から古川地方生活圏の中心都市である旧古川市内までのアクセス性向上が見込まれる道路である) 鬼首地区→旧古川市内=59分→48分(11分短縮)</p>		
事業実施環境		—	注目すべき影響はない。		

採択の理由

費用便益比が2.5と便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。また、当該事業箇所の並行現道区間における線形隘路の解消や法面崩落等に対する安全性の確保、高次医療施設へのアクセス時間短縮、産業支援等、当該事業の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。以上より本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。